2014.5.24. 朝日(夕刊)

(5)

朝日新聞　第3種郵便物認可

薄い 軽い 木の塀重宝

大阪・高槻の町工場開発

地元の森活用 東北でも

大阪府高槻市の町工場が東日本大震災をきっかけに開発した木の塀が、被災地などで注目されている。倒れたときの危険性などが指摘されるブロック塀に比べて軽く、地場の木材を活用できる利点もあるという。

港製器工業が開発した木の塀＝大阪府高槻市唐崎中3丁目

津波で壊滅的な被害を受けた岩手県大槌町の高台。4月中旬、復興工事の作業員が寝泊まりする施設「ホワイトベース大槌」が完成した。敷地をぐるりと囲んでいるのは、大槌町産のスギの木の板を使った塀だ。

木の塀を採用した岩手県森林組合連合会の平野裕幸さん(43)は「地元の木材を復興に役立てられないかと考えていた」と話す。「山と海に囲まれた大槌の風景に合う」と地元の人にも好評で、連合会では今後建てられる復興住宅に木の塀を使えないか、自治体などに提案していく予定だ。

木の塀を開発したのは、高槻市の「港製器工業」。鉄やアルミの加工を手がける。マーケティング課の大原晃さん(56)は「震災でブロック塀ががれきになり、復興の邪魔になっている状況を見て発案された」と話す。薄くて軽く、倒れても比較的安全なのが売りだ。

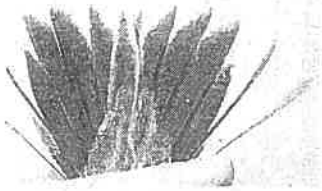
縦18センチ、横180センチ、厚さ24ミリに統一した木板を、等間隔のアルミ柱に1枚ずつ差し込んでいく。標準的な1平方㍍あたりの設置費用は2万3千円から。木板が傷んだら交換できる。同社では主に九州の間伐材を用意しているが、基本的には顧客の地元の木材を使うよう勧めている。

今春から新商品として売り出した。すでに大阪、高知、鳥取、島根、山梨の森林組合などとも提携。ホームページなどを見た個人客から直接、「うちの家の塀を建て替えて」といった依頼も多いという。

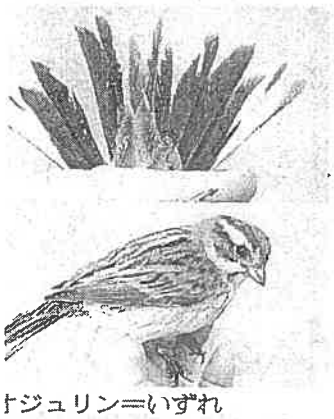
1978年の宮城県沖地震では死者28人の多くがブロック塀や石塀の倒壊で犠牲になった。その後、81年に建築基準法が改正され、ブロック塀の安全基準は厳しくなったが、通常の耐久年数20～30年を超えた塀はまだ多いとされる。神戸市や水戸市など、歩行者の安全面からブロック塀を生け垣に替えれば設置費用を助成する自治体もある。

開発段階から木の塀に注目してきた関西大学社会安全学部の亀井克之教授（リスクマネジメント論）は「放置されている森林の木材が活用できるし、何よりブロック塀の倒壊リスクを減らせるのが大きい」と話している。

（伊藤喜之）



▲正常　▼異常



オジュリン＝いずれ
鳥類研究所提供

オオジュリン

オジロ科。5～7月に青森北海道、ロシア・カムチャ半島などで繁殖。秋に越冬の関東以南に移動し、翌年繁殖地に戻る。

あたる767羽に同様の尾羽の異常がみつかった。異常をもつ鳥の97・3%は、11年に生まれた幼鳥だった。

チームはこうした調査結果を昨年秋、日本鳥学会誌で報告。原因は「判断できなかった」としながら、渡りの経路

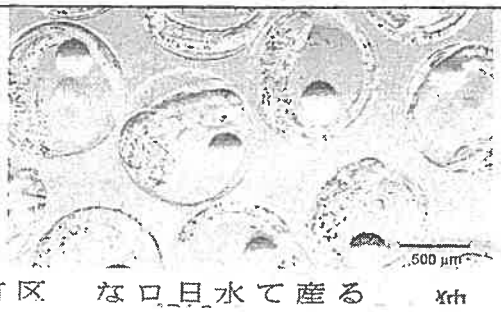
「子を思う心は変わらない」

神戸児童殺傷17年 父親が手記

神戸市須磨区で起きた連続児童殺傷事件で、土師淳君（当時11）が当時少年の

彼自身がきちんと分析した上で、彼自身の言葉で説明して欲しい。そのような

屋内水槽で



稚魚が産まれる直前の受精卵＝水産総合研究センター提供

暑い西日本 北日本冷夏

気象庁6～8月予報

気象庁は23日、この夏（6～8月）の天候予報を

の町区　なロ日水て産る